

「バイオマスエネルギー」についての見解

東京・生活者ネットワーク

バイオマスとは、生物資源 (bio) の量 (mass) を表し、エネルギー源として再利用できる動植物から生まれた有機性資源で、廃棄物系と栽培作物系に大別される。唯一の循環エネルギー資源であり、基本的に大気中の二酸化炭素濃度を上昇させることがないとの考えから、地球温暖化対策の有力な切り札として注目されるようになった。

その一方で、ブッシュ大統領が対中東戦略の一環として打ち出した脱石油の「バイオエタノール戦略」が、世界の食糧供給に異常事態を生み出している。アメリカではすでにバイオエタノール専用遺伝子組み換えされたトウモロコシが増大し、サブプライム危機によって行き場を失った投機マネーが穀物市場に大量に流れ込んだことであつてない価格高騰となり、日本においても生活を直撃する日用品の値上げが相次いでいる。

その中では、大きな課題も明らかになり、バイオエタノール生産はエネルギー効率が低く、ガソリンと同じエネルギーを得るためには1.2~1.3倍のコストが必要であること、エタノールの発酵過程で天然ガスや石油などの化石燃料を消費すること、持続的な農業の破壊をもたらすことなどが挙げられている。

石油に頼る現在のライフスタイルを維持しようとする、石油代替のエネルギーが大量に必要なが、車社会や使い捨て社会を見直すなどライフスタイルの転換によって省エネ社会を実現することがまず何よりも求められる。

エネルギーの将来は今を基準に予測するものではなく、これからわれわれが選択して作り上げていくものだ。そのためには、太陽光などさまざまな自然エネルギーを組み合わせる総合的に目標を達成することが重要となる。バイオマス活用はあくまでもそのひとつであり、食もエネルギーも他の国から奪うことなく、各地で展開している「菜の花プロジェクト」など、地産地消をできる限りすすめていくべきものである。

国際社会が近代史上、最も深刻な食糧危機に直面しているこの時期、地球規模の安心・共生を第一に、世界における食糧需給とのバランス、そして食の安全を保ちながら、食糧と競合することのない範囲でバイオマスエネルギーは推進すべきものとする。